

ごみと食品ロスと生活排水の

将来の目標と取り組み

～第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画 概要版～

枚方市ではさらなるごみの減量や資源の有効活用、生活排水の適正処理を推進するために、食品ロス削減についても盛り込んだ「第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画」を策定しました。



それぞれのペースで
次の一歩へ

▶ 計画本編
は
ま
ち
の
こ
じ



枚方市のごみの排出量

枚方市のごみの排出量は、年々減少傾向にあります。

■ 家庭系ごみ

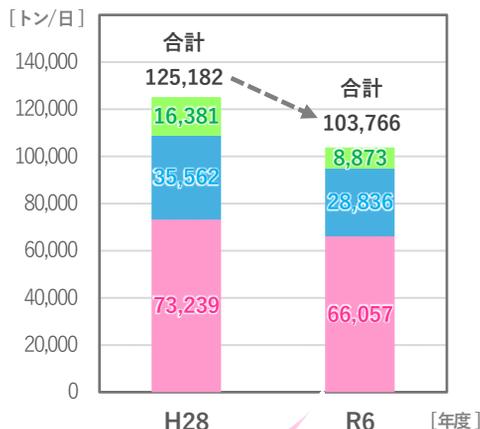
市民のみなさんが日常の生活で排出するごみ

■ 事業系ごみ

店や事務所・工場が事業活動で排出するごみ

■ 再生資源集団回収

町内会や自治会といった地域団体が主体となり、定期的に自主回収し専門業者に引き渡す古紙や空き缶などの資源物



家庭系ごみの一部は、市がリサイクル

家庭系ごみは、効率よくリサイクルを行うために分別区分を設けており、「資源ごみ」として排出されたごみは、それぞれの品目ごとに専門業者に処理を委託するなどして、リサイクルしています。

家庭系ごみ		66,057トン
内訳	一般ごみ	50,605トン
	粗大ごみ	6,608トン
	資源ごみ	8,844トン

- 新たなびん製品や再生金属 など (リサイクル)
- 工業用パレットやたまごパック など (リサイクル)
- 新たな紙製品へ (リサイクル)
- 空き缶、びん・ガラス類 (リサイクル)
- ペットボトル・プラスチック製容器包装 (リサイクル)
- 古紙 (リサイクル)

他のまちと比べてみると

※数値は環境省一般廃棄物処理実態調査(令和5年度)より

1人1日当たりのごみの排出量

739グラム

大阪府内市町村平均 877グラム

大阪府内で6番目に少ない

1人1日当たりの再生資源集団回収量

67グラム

大阪府内市町村平均 42グラム

大阪府内で6番目に多い

リサイクル率(資源化率)

18.2%

大阪府内市町村平均 12.6%

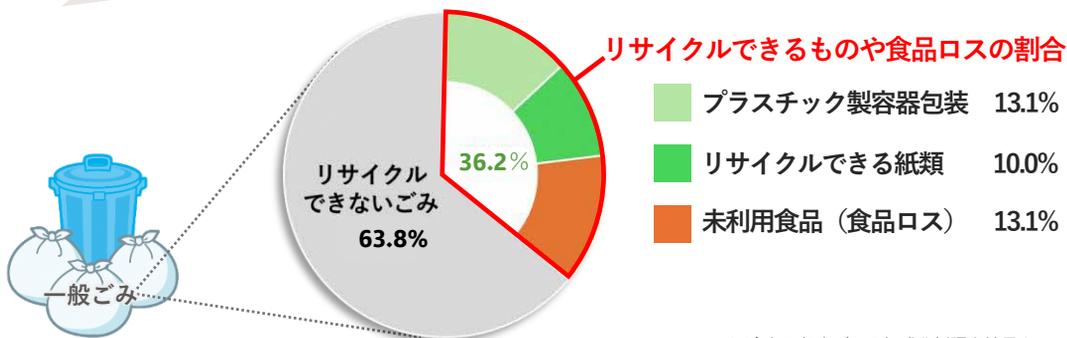
大阪府内で6番目に高い

みなさんのご協力のおかげで、ごみの減量やリサイクルが進んでいます。



しかしながら

燃やしてしまうごみの中に、リサイクルできるものや食品ロスが、まだまだ含まれています。



※令和7年度ごみの組成分析調査結果より

一人ひとりが習慣の改善や分別の徹底でごみを削減・リサイクルできる余地があります。

枚方市のごみに関する目標

基準年度から10年間で、ごみの焼却量を**17%**削減します。

令和6年度（2024年度）84,051トン ▶ 令和17年度（2035年度）69,641トン
基準年度

（目安）一人ひとりが、1日に排出する焼却されるごみを**72グラム**減らすことで達成

いろいろな
72グラムの例



4R

枚方市のごみの減量と資源化の合言葉「4R（よんあーる）」を徹底し、ごみの焼却量の削減を進めます。

Refuse

（リフューズ）

無駄になる、ごみになってしまうものは断る

Reduce

（リデュース）

ごみを出さないようにする

Reuse

（リユース）

できるだけ繰り返し使う

Recycle

（リサイクル）

資源として再利用する

目標を達成できるように、以下のことに取り組みます。

家庭系ごみの4Rの徹底

ごみを発生させない取り組みを最優先に、学習機会の創出や情報発信を行い、その上でごみの分別の徹底を図りながらリサイクルの拡充を進めます。

- ①環境教育・環境学習や啓発・情報発信の推進
 - ・小学校等における4R教育の推進
 - ・市民、事業者等と連携した4Rの学習
- ②4R活動の促進
 - ・リユース事業の充実
 - ・プラスチック使用製品リサイクルの実施
- ③分別排出・適正排出の促進
 - ・リチウムイオン電池等の適正排出強化
 - ・サポート収集の推進
- ④ごみ処理手数料の適正化
 - ・一般ごみの有料化の検討
 - ・電子決済導入の検討



事業系ごみの4Rの徹底

4Rの取り組みを自らの責任と捉え、主体的に行動ができるように、情報発信や手法の充実を図り、さらなるごみの発生抑制とリサイクルに取り組みます。

- ①啓発・情報発信の推進
 - ・事業者等と連携した4Rの啓発等
 - ・排出事業者向け研修会の開催
- ②4R活動の促進
 - ・古紙リサイクルの推進
 - ・多量排出事業者への減量指導
- ③分別排出・適正排出の促進
 - ・減量及び適正処理の手引きの改訂
 - ・排出事業者への立入指導
- ④事業系ごみ処理手数料の適正化
 - ・事業系ごみ処理手数料の適正化の検討



持続可能な社会の実現に向けた資源循環推進体制の整備

資源循環の拠点や大規模災害への対応、DXを活用した効率的な収集運搬体制の構築など、将来を見据えた安全で安定的な拠点・体制の整備を進めます。

みなさんにご協力いただきたいこと

生活の中で取り組んでいただきたいこと

Refuse

(リフューズ)

無駄になる、ごみになってしまうものは断る

- ・割り箸、プラスチックスプーンは 不要なときは断る。



Reduce

(リデュース)

ごみを出さないようにする

- ・マイボトルを持って出かける
- ・生ごみはよく水を切ってから捨てる



Reuse

(リユース)

できるだけ繰り返し使う

- ・リユースショップやフリマアプリを利用する
- ・壊れても修理して使う



Recycle

(リサイクル)

資源として再生利用する

- ・地域の集団回収に参加する
- ・市のごみの分別ルールをまもる



無理のない範囲で、
できることから！

事業活動の中で取り組んでいただきたいこと

Refuse

(リフューズ)

無駄になる、ごみになってしまうものは断る

- ・納品の際に通い箱を活用する

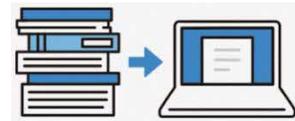


Reduce

(リデュース)

ごみを出さないようにする

- ・会議などのペーパーレス化
- ・マイボトル・マイカップの利用



Reuse

(リユース)

できるだけ繰り返し使う

- ・コピー用紙の裏面利用
- ・不要になった事務用品の他部署での活用



Recycle

(リサイクル)

資源として再生利用する

- ・古紙や木くずなど再資源化できるものは、リサイクル事業者へ処理を委託する



一人ひとりの
行動が必要！





本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう食品のこと

直接廃棄
(手つかず食品)



過剰除去



食べ残し



食品ロスを削減するためには、私たち一人ひとりが「もったいない」という気持ちを持って、食品ロスの現状や削減の必要性を理解し、主体的な行動をすることが求められています。

食品ロスの削減目標

10年間で家庭系食品ロスの発生量を**1,263トン**削減します。

令和6年度(2024年度) 6,612トン ▶ 令和17年度(2035年度) 5,349トン

10年間で事業系食品ロスの発生量を**394トン**削減します。

令和6年度(2024年度) 2,934トン ▶ 令和17年度(2035年度) 2,540トン

目標を達成できるよう、以下のことに取り組みます。

市民の食品ロス削減に向けた取り組みの推進

食べ物を無駄にすることは「もったいない」という意識の定着を図り、日々の生活で食品ロス削減に向けた行動が実践できるよう、一人ひとりの意識醸成に取り組みます。

①環境教育・環境学習の推進

- ・出前講座・出前学習の実施
- ・学習教材活用による学ぶ機会充実



②啓発・情報発信の推進

- ・食品ロス削減情報を集約したホームページの作成
- ・「食べのこサンデー」運動の推進

③フードドライブ活動の促進

- ・フードドライブの周知
- ・災害時備蓄食料の寄付促進



事業者の食品ロス削減に向けた取り組みの推進

食品ロスの問題や削減の必要性について理解を深めるための啓発・情報発信を行うとともに、優良事例を周知します。

①食品ロス削減活動の促進

- ・啓発リーフレット等の作成
- ・食べ残しの持ち帰り促進



②食品廃棄物の資源循環の促進

- ・食品廃棄物に関する情報発信
- ・食品関連事業者による食品リサイクル促進

③フードドライブ活動の促進

- ・フードバンク促進
- ・自主的なフードドライブ活動促進



市民・事業者等と連携した取り組みの推進

食品ロスは市民、事業者のそれぞれの行動が相互に影響を及ぼすため、各主体が連携・協力しながら情報共有・情報発信を図り、食品ロスの削減ができるような取り組みを推進します。

①各主体との連携強化

- ・国、大阪府等のキャンペーンへの参加
- ・全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会への参画



あなたはどのタイプ？ 食品ロスのクセをチェック！

すぐにできる「食品ロスを減らすコツ」
がわかります！

○ついつい買いすぎタイプ

「安いから」と予定外のものを買ったり、家にある食材をダ
ぶらせていませんか？消費のペースを考えない買いすぎ
は、期限切れの大きな原因です。



① 計画編

② 買い物編

○いつの間にか期限切れタイプ

「気づいた時には賞味期限が切れていた」「冷蔵庫の奥で
野菜がしなしなになっていた…」なんてことはありません
か？せっかくの食材も、使い忘れてしまっはもったいな
いですよね。



③ 保存編

○しばしば食べ残しタイプ

「あと一口だけど、もうお腹いっぱい……」そんな食卓の
小さな“見逃し”に心当たりはありませんか？一回の量
はわずかでも、それが「しばしば」重なれば、せっかくの
料理が「食品ロス」変わってしまいます。



④ 料理・
外食編

コラム

「食べのこサンデー」運動

枚方市では、食品ロス削減を意識した行動の
「きっかけ」として、日曜日（サンデー）から始
める「食べのこサンデー」運動を推進しています。

毎週日曜日（サンデー）から始めよう！

- ・食べる分だけ作りましょう
- ・食べる分だけ注文しましょう
- ・ご飯を無理なく食べ切りましょう



買い物前に冷蔵庫に残っている食材を必ず確認、
料理の際に残っている食材を使い切るなど、
日々の行動につなげていきましょう！

4コマ漫画

頼みすぎは良くないよ！



今日からできる！食品ロス削減アクション

①計画編

現状を把握し、無駄な食品を減らしましょう！

- ・冷蔵庫とストックの「見える化」
- ・「家にあるもの」から使う習慣を
- ・賞味期限を把握しておく



合言葉は『まず確認、それから買い物』

「これ、まだあったっけ？」を防ぐには、お買い物前の1分チェックが効果的。冷蔵庫の中やストックをスマホで撮影するだけで、買いすぎはグッと減らせます。

②買い物編

必要な分だけ購入しましょう！

- ・使い切れる「必要量」を選ぶ
- ・すぐに食べるなら「手前どり」
- ・「お買い物メモ」で買いすぎ防止



お得に思えても…

お買い得商品を大量に買って、余らせてしまうと、結局は損をしてしまうことになります。

③保存編

食品を長持ちさせ、無駄なく活用しましょう！

- ・買ったらすぐに「下処理」を
- ・食材に合った「適切な保存」を
- ・冷凍保存を上手に活用



便利グッズの活用

冷凍保存用のジッパーバッグや食品を保存した時期をメモできるラベルテープなどの食品ロス対策便利グッズを活用してみよう。

④料理・外食編

注文も調理も「食べきれぬ量」を意識しよう！

- ・適量を「作る・注文する」
- ・残ったら早めに「保存・持ち帰り」
- ・残った料理を「リメイク」



迷ったら『小盛』が合言葉！

「食べきれぬかな？」と思ったら、迷わず小盛を選んでみませんか？お店では「ご飯少なめ」を注文し、お家では「小さなお皿」に盛り付ける。足りないときは後から足せば大丈夫。「最初から少なめ」が、完食への一番の近道です。

コラム

賞味期限と消費期限の違い

「まだ食べられる？」と迷ったことはありませんか？実は、食品の期限には「おいしさの目安」と「安全の目安」の2種類があります。この違いを正しく知って、無駄なく安全に食卓を楽しみましょう。

賞味期限

おいしく
食べられる期限

(食品例)
お菓子・レトルト
食品・缶詰等

消費期限

安全に
食べられる期限

(食品例)
お弁当・お惣菜・
生菓子等



事業活動の中で 取り組んでいただきたいこと

食品ロスやごみを減らすために、日々の運営で取り組んでいただきたい事例をご紹介します。お店のスタイルに合わせて、まずはできることから始めてみてください。

○小盛メニューの導入

(例) 少食の方やシニア向けに「ハーフサイズ」や「ご飯少なめ」を用意する

○「手前取り」のPR

(例) 商品棚に「すぐ食べるなら手前から」というPOPを掲示して、協力を促す

○従業員とごみ減量や適正処理の勉強会をする

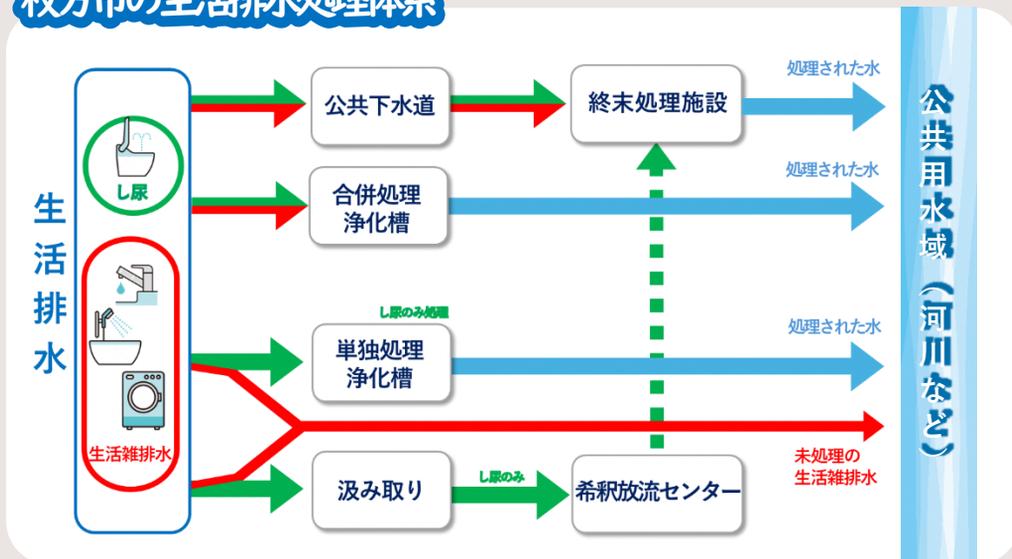
(例) 分別のルールを再確認し、資源化できるものを徹底して分ける

枚方市の生活排水について

生活排水とは、トイレ、台所、風呂、洗濯など日常生活からの排水のこと。枚方市では生活排水処理について以下のとおり取り組みます。

- 公共下水道整備計画区域内は、生活排水の処理は公共下水道により行います。
- 公共下水道整備計画区域外は、生活排水の処理は合併処理浄化槽を中心に行います。
- 公共下水道の老朽化した^{かんきょ}管渠などの適切な維持管理を計画的に行うとともに、浄化槽の維持管理が適正に実施されるよう指導・啓発に取り組みます。

枚方市の生活排水処理体系



生活排水適正処理率のさらなる向上を目指します。

令和6年度(2024年度) 99.2% ▶ 令和17年度(2035年度) 99.6%
基準年度

目標を達成できるよう、以下のことに取り組みます。

公共下水道の整備

- ・ 公共下水道の老朽化対策、適切な維持管理
- ・ 災害に強く持続可能な下水道システムの構築

し尿及び浄化槽汚泥等の処理

- ・ より効率的で効果的な収集体制の構築
- ・ 未接続世帯の点在化の縮減

浄化槽の適正な維持管理

- ・ 浄化槽管理者に対する保守点検・清掃や法定検査の指導
- ・ 公設浄化槽の適正維持管理

市民に対する広報・啓発種及び環境学習の推進

- ・ 公共下水道整備区域における水洗化の促進
- ・ 下水道整備計画区域外における生活排水対策の周知

災害時の対応

- ・ 災害時協定による大阪府等との連携